

## 2014（平成26）年度予算について

学校法人 桃山学院  
理事長 水谷 和生

2014（平成26）年度学校法人桃山学院の予算は、予算会議の議を経て、2014年3月25日（火）開催の理事会、評議員会で承認され成立いたしましたので、ここに予算の概要と予算書類の公開を以下のとおり行ないます。

### 主な事業予算の概要

#### [ キャンパス整備 ]

(1) 和泉キャンパス施設設備中長期保全計画

移転後19年を経過した和泉キャンパスにおいて、既存施設設備の中長期的な視点からの保全計画に基づき、そのための必要経費を計上します。

(2) 「魅力ある和泉キャンパス創り」の推進

和泉キャンパスの保全計画とは別に、学内の諸施設設備の改善によるイメージアップを行い、学生や入学志願者等に対して「魅力あるキャンパス創り」を推進します。

(3) 昭和町キャンパス整備

中学校・高等学校のある昭和町キャンパスにおいて、施設設備の充実化の一環として、既存屋外プールの室内温水化を行います。また、和泉キャンパス同様、既存施設設備の中長期的な保全計画立案のために、事前調査を行います。

#### [ 危機管理体制の整備・強化 ]

(1) 災害発生時に対する対策の整備・強化

災害発生を想定して、当該時に必要とされる備蓄品・装備品の購入費用を前年度に引き続いて計上します。

#### [ 教学条件の整備・充実 ]

(1) 学習支援センターの充実

昨年に設置した学習支援センターの運営経費を計上します。本年度は事務組織を改編し、当センター運営事務組織として「教育支援課」を新設し、一層の機能強化をはかるとともに、種々の教育支援業務を行います。

(2) 情報インフラ整備

2011年度に更新した学内情報ネットワークシステム（SAINT）の安

定運用をはかります。この新システムは機能の充実だけでなく、コストパフォーマンスに優れたもので、この安定運用を行なうことにより、学内情報流通の更なる効率化と学生サービスの一層の向上をはかるとともに、経費節減につとめます。また、事務システムの安定運用を行いつつ、一部の新規事務システムも導入します。

なお、高等学校においても、校内放送設備や教室のAV機器の更新を行ない教学条件の向上につとめるとともに、インフラ整備の充実につとめます。

(3) 国際化の推進

「世界の市民」の育成をめざし、国際交流のさらなる推進・充実のため、交換留学における受入・派遣留学生への支援強化等、国際交流充実のための諸取り組みを行います。さらに、海外への大学への派遣をとおり、現地の企業訪問によりビジネスを習得するためのプログラムを実施します。

(4) 就業力育成支援事業

本学経営学部の『実践教育による「社会人力」育成プログラム』の運営費を計上します。

(5) 大学同窓会記念事業

学院創立125・大学開学50周年記念事業寄付金としていただいた大学同窓会よりの寄付金を財源に、「桃山学院大学同窓会周年事業寄付金取扱要領」に基づく事業費を計上します。ここでは、「入学前教育プロジェクト」、「資格取得推進」、「海外インターンシップ」、「学生リーダー育成プロジェクト」等の事業を実施します。

[ 学生生活支援の充実 ]

(1) 通学バス路線の充実

昨年新設した「和歌山ライン」および「富田林ライン」と既存のライン（「和泉中央ライン」、「泉大津・府中ライン」、「金剛ライン」）の5ラインの運行により学生の通学の利便性をはかり、就学支援の充実につとめます。

(2) 就職支援

キャリアセンターにおいて、各種セミナーおよび就職合宿の実施（年3回開催）などを通して、職業意欲の高揚をはかるなど就職支援体制の強化充実をめざします。それに加え保護者対象説明会を実施することにより、キャリア教育の重要性や採用状況・就職活動についての理解や認識を深めてもらうことにつとめます。

(3) 入学試験成績優秀者対象奨学金

2012年度よりの一般入試の全制度（A方式、前期B方式、前期B方式+C方式、前期・中期・後期C方式、後期B方式）を対象とした「入学試験成績優秀者特別奨学金制度」を2014年度新入生に対しても継続して実施し、経済支援策の充実と優秀な人材の確保につとめ、学内の活性化をはかります。

(4) キャンパスコミュニティ形成支援

学生生活において、仲間作りを行なったりキャンパス滞留時間を増やすことにより、帰属意識の醸成を促進するとともに学生の孤立化を防ぎ、またキャリア形成の一助とするため、昨年度に引き続き「ひとり暮らしの料理教室」、「プロジェクトアドベンチャー」等種々のプログラムを実施します。

[ スポーツ振興 ]

(1) 特別スポーツ強化

社会から注目度の高い複数のチームスポーツ種目を、常に全国大会レベルで競技し得ることを目標に特別に強化し、その活躍を通して学生諸君の本学への帰属意識の向上をはかります。また広く社会に本学の活気ある姿をアピールします。

[ 命の教育 ]

(1) A E D普及による「命の教育授業」への取り組み

昭和町キャンパスの中学校および高等学校において、A E D装置を取り入れた「命の教育・心肺蘇生法の授業」を積極的に推進します。

[ 地域づくりの推進 ]

(1) 地域貢献・連携の強化

本学が南大阪を中心とした地域づくりに関して、「南大阪再生プロジェクト」における学生を中心とするボランティア活動や和泉市との共催による「ふれあいニュースポーツ」といったスポーツ等の活動を通して、地域貢献・連携の強化につとめます。

[ ボランティア活動の推進 ]

(1) 東北ボランティア

東日本大震災以降行っている被災者支援のためのボランティア活動にかかわる費用を計上します。

[ 広報・入試対策の強化 ]

(1) 広報活動の強化

恒常的な広報費とは別に、大学の認知度およびイメージアップのための広報費などを計上します。また、ホームページを更新して、内容等をより充実したものとし、内外利用者への一層の情報提供につとめます。さらに、2014年は大学開学55周年にあたるため、それを記念した各種の広報活動を実施します。

[ 財政基盤・戦略基盤の強化 ]

(1) 特定資産の整備・拡充

財政基盤の強化のため、施設設備の維持再生資金である減価償却引当資産について、「期末減価償却累計額の少なくとも50%以上は確保する」という理事会決定に基づき当該引当資産への繰入れを行ないます。

(2) 中期経営計画の実施

2013年度に策定された中期経営に基づき諸施策を実施するとともに、その進捗状況の点検により、適宜調整・見直しをはかることで、財政基盤の安定・強化につとめます。

### 資金収支予算について

資金収支予算書は、予算編成を通して当該年度の諸活動に対応するすべての資金収入と資金支出の内容を明らかにするとともに、支払資金の顛末も明らかにする書類です。2013年度補正後予算額との比較で示せば次表のとおりです。

資金収支予算比較総括表

(単位：百万円)

項 目	2014年度予算額	2013年度補正後予算額	増 減
前年度繰越支払資金	5,387	6,628	1,241
資金収入	11,324	12,336	1,012
資金支出	11,673	13,577	1,905
次年度繰越支払資金	5,039	5,387	348

<注> 端数処理(百万円未満を四捨五入)の関係で合計額が合致しないことがあります。

以上のように資金収入につきましては、合計で10億1,200万円減の113億2,400万を計上しました。この減収については、大学における「教育の質保証」のための入学者数抑制による学生生徒等納付金収入減、金利低下による受取利息(資産運用収入)減、退職者数減による財団交付金収入(雑収入)減、その他の収入減(既存特定資産の取り崩し[他の特定資産への振替]減)などがあげられます。

一方資金支出では、合計で19億500万円減の116億7,300万円を計上しました。この主な要因としては、上記の退職者数減による人件費支出減、既存特定資産の振替減による資産運用支出減、施設関係支出減などがあげられます。

その結果、次年度繰越支払資金は3億4,800万円減の50億円3,900万円を見込んでいます。

### 消費収支予算について

消費収支予算書は、予算編成を通して当該年度の消費収入と消費支出の内容を明らかにし、消費収支の均衡状態(経営状態)を表す書類です。2013年度補正後予算額との比較を表で表せば以下ようになります。

消費収支予算比較総括表

(単位：百万円)

項 目	2014年度予算額	2013年度補正後予算額	増 減
帰属収入	10,410	11,040	630
基本金組入額	1,261	1,914	653
消費収入 (+)	9,149	9,126	23
消費支出	10,010	10,671	661
当年度消費収支差額 (-)	861	1,544	684
前年度繰越消費収支差額	2,788	4,333	1,544
翌年度繰越消費収支差額 (+)	1,928	2,788	861

<注> 端数処理（百万円未満を四捨五入）の関係で合計額が合致しないことがあります。

以上のように帰属収入につきましては、6億3,000万円減の104億1,000万円を計上しました。これにつきましては、学生生徒等納付金減、資産運用収入減（受取利息減）雑収入減（退職者数減による財団交付金減）などによるものです。

基本金組入額は6億5,300万円減の12億6,100万円を計上しました。その主な中身につきましては、図書や備品関係といった恒常的な資産取得のためのものの他に、第2号基本金への組入れおよび和泉キャンパスにおける中長期改修計画による投資といったキャンパス整備事業関係のものも含まれています。

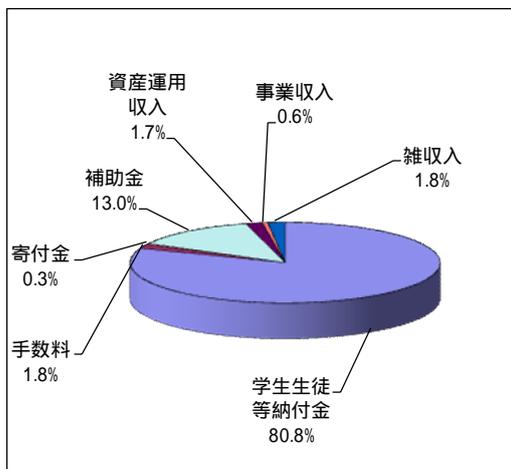
そこで、帰属収入から基本金組入額を控除した消費収入合計では、91億4,900万円の計上となり、2,300万円の増加となりました。

消費支出につきましては、退職者数減による人件費の減などにより6億6,100万円の減となり、合計で100億1,000万円の計上となりました。

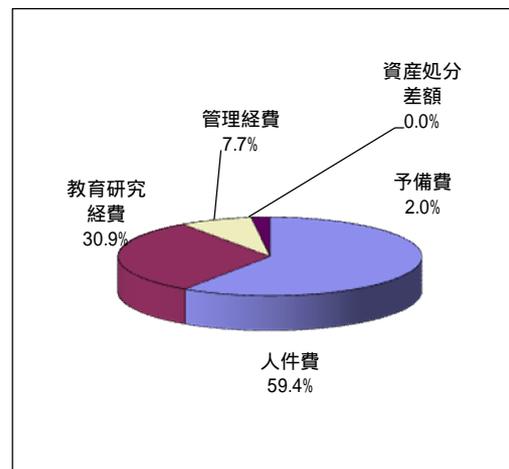
その結果、当年度消費収支差額は6億8,400万円減の8億6,100万円の支出超過となり、翌年度繰越消費収支差額は19億2,800万円の収入超過となる見込みです。

なお、消費収支予算における一般に「経常収支」といわれる帰属収入と消費支出の構成をグラフで表せば以下ようになります。

帰属収入の部合計 104億1,015万円



消費支出の部合計 100億1,002万円



2014(平成 26)年度 資金収支予算書  
2014(平成 26)年度 消費収支予算書